

徳島県農林水産総合技術支援センターの視察内容

1 徳島県立農林水産総合技術支援センターの組織・施設の概要

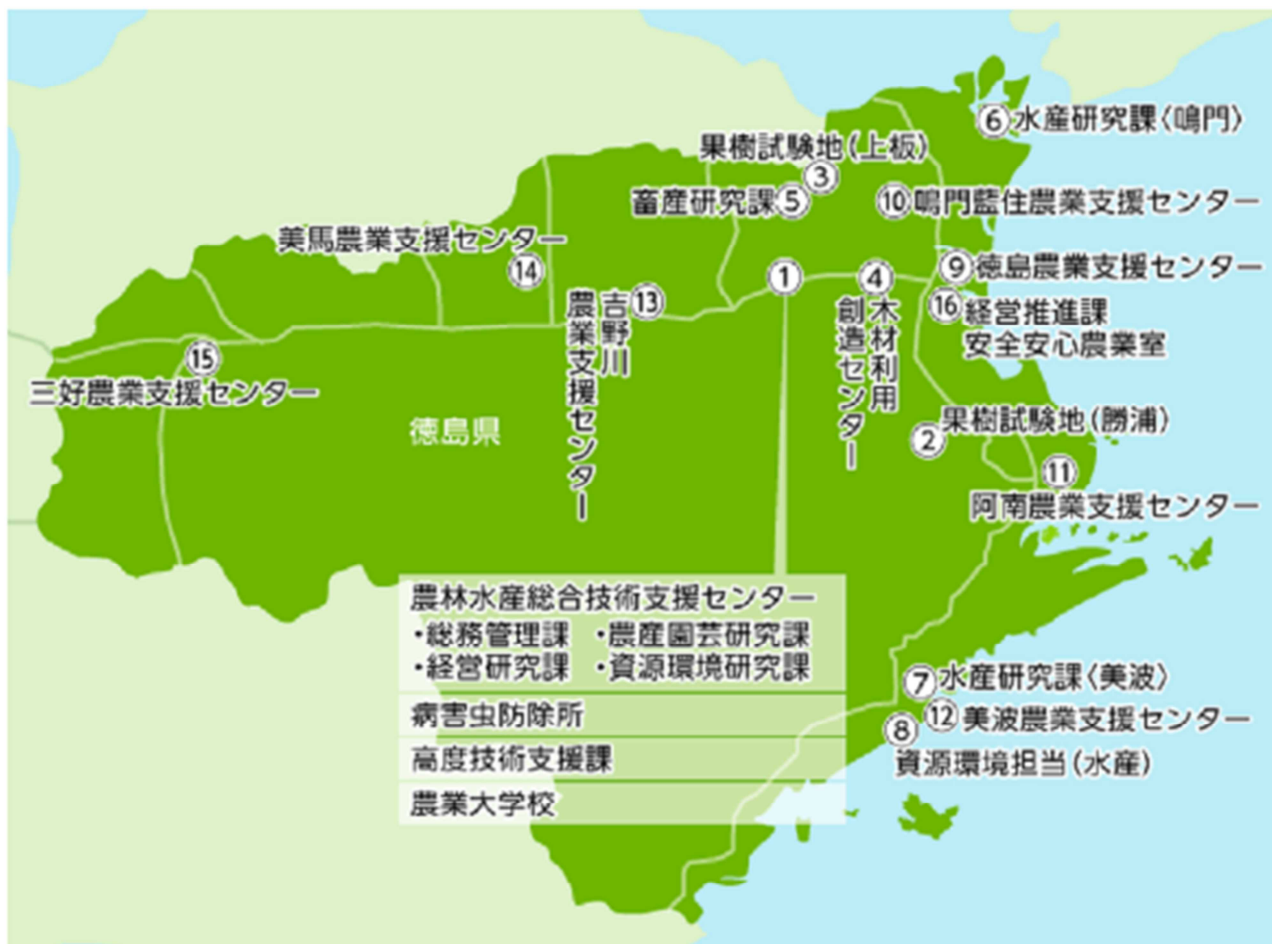
○農林水産総合技術支援センター設置(H17)

- ・組織の統合であり、施設移転なし

○新センター開所(H25)

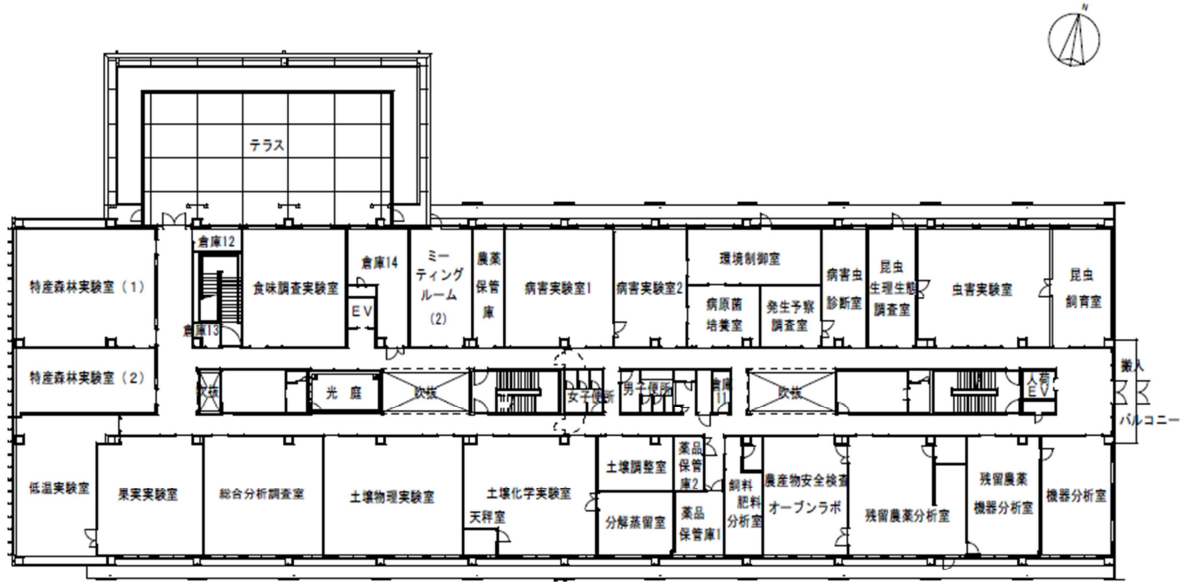
- ・農業、果樹、森林、農大の機能を集約（農大が農試敷地へ移転）

組織・所在地

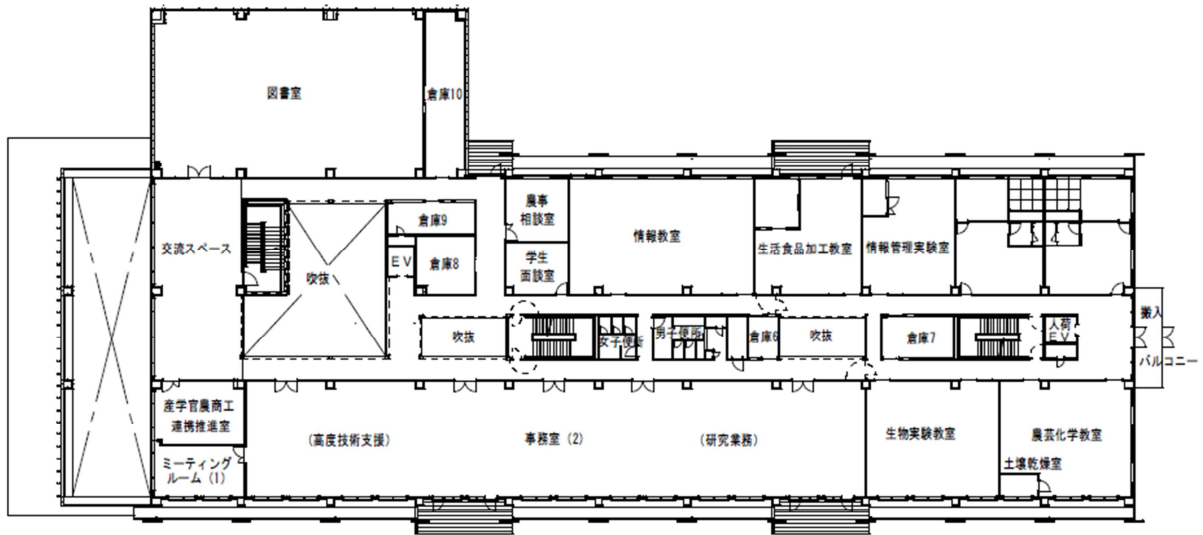


徳島県立農林水産総合技術支援センター

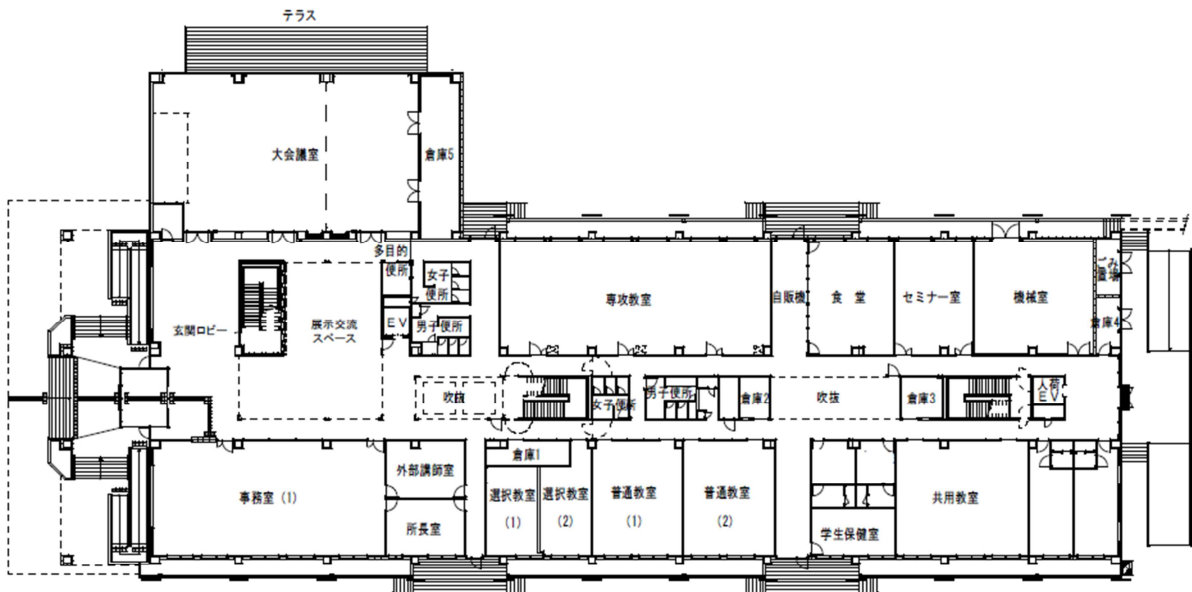




3階 平面図



2階 平面図



1階 平面図

2 徳島県での取組の概要

※試験研究機関と農業大学の併設に伴う効果

- ・ 研究員が農業大学生の意見を参考にし、現場の問題点を把握
- ・ 研究員の教育業務の兼務による講義レベル向上
- ・ 研究機関の先端技術研究施設を活用した農業大学校での先端技術教育

※農林業の状況に応じた研究課題等の設定

- ・ 野菜、果樹を対象として、先端技術を活用した試験研究を実施
- ・ 施設野菜を対象とした産学官連携を実施
【徳島県の野菜・果樹の生産額は山口県の2.5倍（米は0.6倍）】

※農業大学校卒業生の進路に応じたコースの再編

- ・ 食品関連企業への就職が多く、「6次産業化ビジネスコース」を設置
【別途、就農や法人就業を目指す「農業生産技術コース」あり】
- ・ 「六次産業化研究施設」を設置し、オープンラボとしても活用

3 研究分野での取組

(1) ICT等先端技術を活用した研究の実施状況とその成果

- 企業連携によりICT栽培環境制御ハウス導入など園芸作物栽培技術の飛躍的改良
 - ・ センターの施設も本年改修し、栽培環境制御システムを導入
 - ・ 安価な環境制御システムであり、施設の増設等の対応も容易
⇒ 生産の太宗を担う、中小規模農家への普及を目指す
将来的にはトマトの生育・収量予測モデルを構築
- 露地園芸（簡易施設）でのICTを活用した栽培環境の「見える化」
 - ・ 安価なICT測定機器を活用し、ニンジン簡易施設の栽培環境をスマートフォン等で確認できるシステムを開発
⇒ 暦や生産者の勘に基づいた管理から、データに基づいた管理へ
将来的にはJA全体での生育状況把握を目指す
- AIを利用した果樹の生育診断技術の開発
 - ・ AI（画像認識）によるウメの熟期判断、ブドウの管理作業適期判断を開発中

(2) 産学官連携の状況とその成果（統合を契機とした連携の強化）

■多様な連携による課題解決

試験場・大学・農業関連企業等との連携

- ・県単独では収集不可能な技術情報等の共有、共同研究・開発の実施

(3) 林業に関する研究の状況

■農業部門と連携した試験研究の実施

- ・森林育成やキノコに関する研究を実施

⇒ 苗木に関する研究において「土づくり」の面で農業部門と共通の課題あり

(4) 農業大・学校併設に伴う効果

研究員が農業大学生の意見を参考にすることで、現場の問題点の把握が可能

(5) その他

■フィールド実証による実用化のスピードアップ

多様な経営体の参画により、速やかにフィールド実証を実施し実用化

■統合に際しての組織見直し

資源環境研究課に鳥獣担当を新たに設置

4 教育分野での取組

(1) 試験研究機関併設に伴う効果

■研究員の教育業務の兼務による講義レベル向上

○研究員(研究総括レベル)が農大職員を兼務

- ・最先端技術を直接学生に講義。学生が研究員に質問するなど、学修意欲が向上

■先端技術教育の実施

○研究用の I C T 等先端技術栽培環境制御ハウスを整備し、今年度から本格的な先端技術教育を開始

(2) 併設に伴う新たなカリキュラム等

■教育内容の充実、カリキュラム再編

○経営の実態を学ぶ取組

- ・学生による模擬会社の設立（計画、生産、販売、経営管理を実地に学ぶ）。試験場の生産物も販売。
- ・地場のスーパーマーケット「キョーエイ」と連携し、販売実習の実施や、講師として「キョーエイ」職員を招へい

○6次産業化関連の教育内容の充実

- ・全国初の県立農業大学校における「食の6次産業化プロデューサー資格取得育成プログラム」〔全国資格〕の認証
- ・学生教育：6次産業ビジネスコースを新設
- ・社会人研修（アグリビジネススクール）：6次産業化コースを実施
- ・構内に6次産業化施設を新設（H30. 4月開設）
⇒ 座学中心から実習を可能とした授業へ

(3) その他

■円滑な就農と定着を支援

センターによる営農開始に必要な情報提供・就農相談を行うとともに、地域との関係構築もサポート

■6次産業化・農業参入等サポート

農業者の6次産業化、経営の多角化や農業への企業参入に必要な技術指導・手続きをセンターがワンストップで支援

■新規就農・就業者数の増加

○新規就農者増加の要因、センター利用就農者の声

- ・青年就農給付金（国）等の制度充実が大きな要因。
- ・Uターン就農の場合、当センターのアグリビジネスコース（社会人研修）で、1年間、基礎的な営農技術を習得できることが安心就農につながったとの意見が多い。

【H29 農大卒業生 38名のうち、農業法人就業 12名、自営就農 7名】

5 施設・装備等

(1) 六次産業化研究施設（オープンラボ）【平成30年4月開設】

■ 農業大学校の本科（6次産業化ビジネスコース）及び研修課程（6次産業化コース）の核となる拠点施設

- ・ 施設：食品加工研究室
食品製造施設（2部屋：農大専用）
- ・ 機器：15種類の食品加工機器

⇒ 開設したばかりだが、一般の方の利用の問い合わせが多い



施設外観



施設内部（徳島県パンフレットより）



視察の状況